

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 収蔵品データベース等システム管理費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100 (内 103)

E-mail：c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 396 千円 (前年度予算額：396 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	396	0	0	0	0	0	0	0	396
要求額	396	0	0	0	0	0	0	0	396
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・ 収蔵品に関する画像や目録をデータベースに蓄積し、そのデータを活用して来館者やインターネット利用者へのサービス充実を図る。

(2) 事業内容

- ・ 収蔵品データベース管理システムの使用料

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
使用料	396	
合計	396	

決定額の考え方

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
ホームページにリンクした情報公開サービスを含め、現状の収蔵品データベースを維持し、最新の状態に保つとともに守秘情報の流出を防ぐ。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
入場者数	(H)	33,645 (H29)	69,852 (H30)	24,976 (R1)	12,700 (R3)	131%

※R3年度に開催する企画展は2本である。R1年度には企画展が3本あったため、以下の計算で達成率を算出した。

$$(24,976 \times 2/3) \div 12,700$$

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - ・昨年度まで公開されていなかったデータベースの一部の公開をさらに進め、ホームページにリンクを設置する。

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 - ・公開サービスにより来館者やインターネット利用者、さらには県民へのサービス向上となった。
 - ・システムを通じた収蔵品情報の紹介により、新型コロナウイルス感染症の流行の影響のほか、様々な理由により来館が叶わない利用者の知的好奇心に応えるサービスを提供することができた。
 - ・新システムに設定されている機能を利用することにより、データ相互の関連づけを進めることができ、収蔵品活用の可能性が広がった。
 - ・収蔵品に関するデータの取扱いが容易になり、収蔵品管理や展覧会の運営をより円滑に進めることができるようになった。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	県の財産として保管している作品について、各作品の詳細情報を一括管理できるとともに、県民にその存在を知らしめることも可能であるため、事業の必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	一定の管理業務が推進できている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	効率化を図るために当館独自の利便性に準じて項目や運用方法の修正を試みている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <ul style="list-style-type: none"> ・担当者が兼任であり、必ずしも最新の状態を保つことができていない。また予算不足により作品の画像を十分に用意できていない。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けオンラインでの美術館活動へのニーズが高まるなか、データベースを活用した新たなコンテンツの開発が課題となる。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <ul style="list-style-type: none"> ・館の主たる事業の推進のためにもデータベースの使用は不可欠であり、継続すべき事業である。また、収蔵品の内容に関する県民の興味にこたえるべく、今後は最新情報の早期更新に取り組みたい。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	